



1-1 新センターの目指す姿

- 研究所併設の強みも生かした、全国トップクラスの周産期・小児の高度医療・研究機関
- 府域の医療ニーズに応じ、地域機関と連携して幅広い周産期・小児診療・母子保健の充実

1-2 新センターの役割

現在の当センターの機能を継続し、さらに充実させる
南大阪地域での周産期・小児医療の基幹施設としての機能を引き続き維持

周産期医療

- 府内随一の総合周産期母子医療センター
 - (1) ハイリスク妊産婦（ローリスクの妊産婦も）
 - (2) 低出生体重児等ハイリスクな新生児
 - (3) 母体・新生児救急搬送の基幹施設

小児医療

- 小児中核病院として高度な小児医療の提供
 - (1) 小児希少・難治性疾患に対する高度専門的医療
 - (2) 幅広い小児の内科・外科的疾患に対する高度な医療
 - (3) 小児救急 (4) 在宅・移行期医療

研究所

- 周産期・小児に関する疾病の原因解明や治療法の開発研究

2 建て替えの必要性

- 施設・設備の老朽化と過大な維持管理コスト(開院から40年以上が経過)
- 特にNICUなど、医療機能の高度化に対し施設が狭隘
- 患者ニーズに応えられない建物構造(個室の不足)

3 病院規模(病床数)

許可病床数 347床【現病床数 375床(▲28床)】

○小児部門・・・人口動態等を基に減少を考慮 (▲30床)

○周産期部門等・・・2021年度より右肩上がりで分娩数増加している状況等を踏まえ、+2床

病床機能別の病床数

単位：床

	現センター	新センター	差
高度急性期	235	235	0
急性期	128	112	▲16
休棟中	12	0	▲12
合計	375	347	▲28

※現在の大阪府病床機能報告基準に基づく病床数

4 スケジュール

2029年度(R11年度)中の開院を目指す